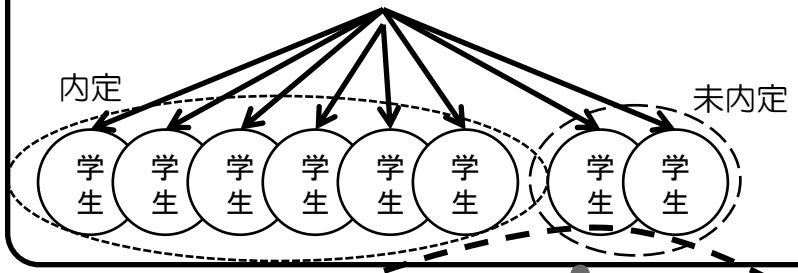
資料３

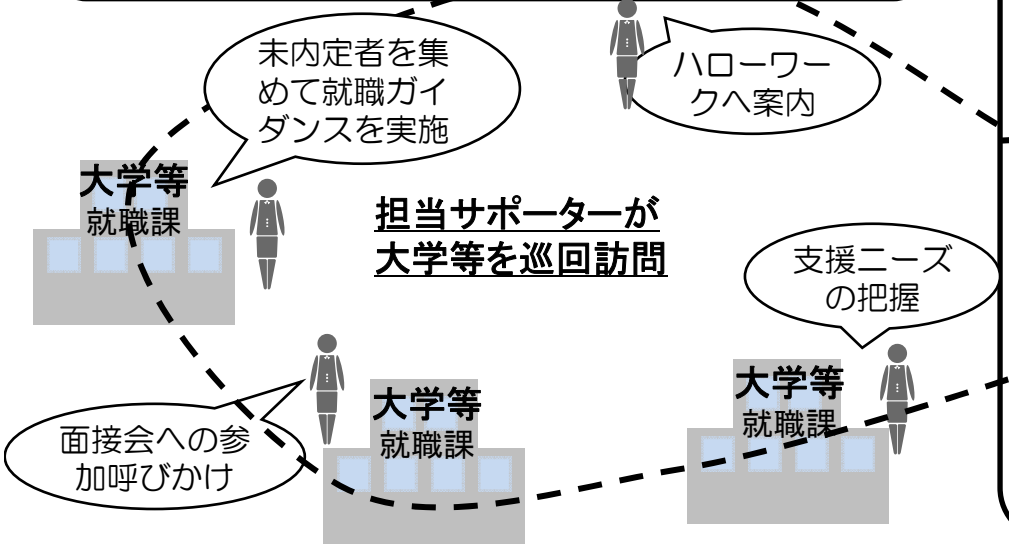
ハローワークと大学等との連携による未内定者の就職支援スキーム

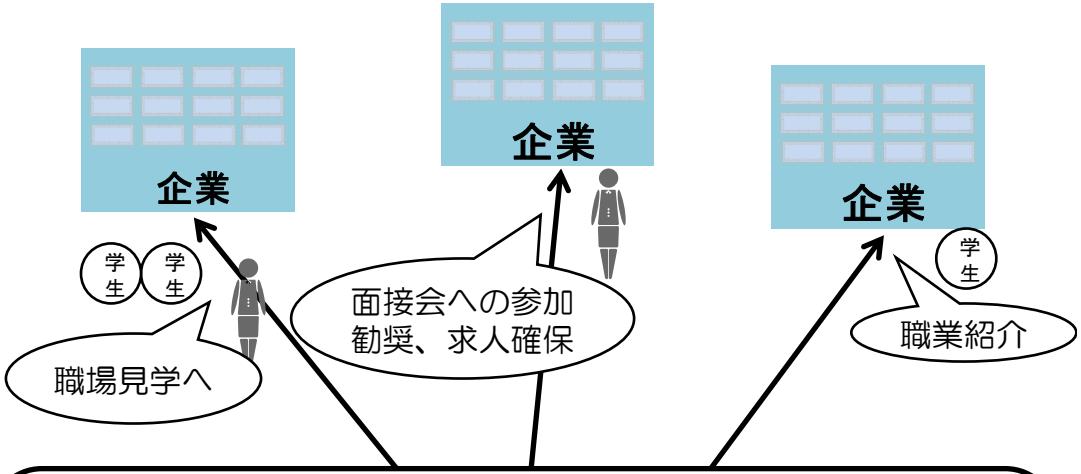
大学等
（就職課／キャリアセンター等）

就職担当教職員、キャリアカウンセラー等が就職に関する支援を実施。

・学生からの就職に関する個別相談への対応
・就職支援講座・セミナー等の企画・実施
・インターンシップ等のキャリア教育の取組
・支援を希望する学生へのハローワークの案内







ハローワーク（学生職業相談窓口）

・大卒就職ジョブサポーターが大学の就職課等に訪問し、ハローワークへの支援ニーズを聴取。

↓

・ニーズを踏まえ、就職活動がうまくいかなかった未内定学生等のハローワークへの誘導、大学等に出向いての就職ガイダンス、就職面接会への参加の働きかけ等を実施。

↓

・学生のニーズを踏まえ、マンツーマンでの支援を実施
・　これまでの就職活動の振り返り・助言、地域の労働市場等の理解促進
・　ハローワークの一般の求人の活用、ニーズを踏まえた求人開拓、就職面接会への参加の働きかけなどにより、希望や適性にあった就職先を紹介。
・　必要に応じて、求人企業の理解促進のための職場見学

大卒就職ジョブサポーターの活動事例

○　学生をハローワーク等に積極的に誘導している事例

・　大学訪問時に就職部から就職支援の相談を度々受け、その相談姿勢が評価を受け、大学内で開催する就職セミナーへの参加要請を受けた。その中で、職業意識形成支援、ハローワーク等への来所、就職面接会への参加を促し未内定学生をハローワーク等へ誘導している。

○　学校との連携が図られている事例

・　地元企業から求人受理をした都度、翌日には学校へ情報提供。各学校の就職部から学生に情報提供してもらい、未内定学生に具体的な新しい求人機会を提供でき、内定獲得につながっている。

○　学校におけるニーズが増えている事例

・　学校が行う就職セミナーでの講師を要請され、学校では把握できない労働市場の活きた情報を盛り込んだ講義を行った結果、継続的な講義の依頼を受けるとともに、未内定学生についてハローワークでの支援を求められるようになっている。
・　大学では求人も少なく、自ら応募先を探すことができない未内定学生について、ハローワークの一般求人も含めたストックの中から適切な求人を開拓し、マッチングを行なうことで、内定につながっている。
・　ある程度学生への就職支援を行う体制が整っている学校であっても、年度末に近づくと３年生に対する就職準備セミナー等の実施に追われ、４年生（未内定学生）に対する時間を掛けた相談・支援に手が回らないため、大卒就職ジョブサポーターに就職支援を行なって欲しいとの声がある。

○　その他

・　何度も面接に失敗した学生からじっくり話を聞くことにより、大企業に拘っていたことや面接の受け方がわかっていなかったことが自ら理解できるようになり、これまで目を向けていなかった業種の中小企業での内定獲得につながった。

高卒就職ジョブサポーターの活動事例

○　企業と学校（生徒）をうまくマッチングさせている事例

・　企業訪問等を通じ企業情報を詳細に把握しており、生徒との職業相談や進路指導担当の先生との情報交換の中で的確な情報に基づいた助言等を実施することで、効果的な生徒の応募先選択やマッチングを行っている。

○　生徒のニーズを踏まえた個別求人開拓を実施している事例

・　卒業直前まで就職先の希望がはっきりせず未内定の生徒が先生に誘導されハローワークに来所。個別相談の結果、希望は接客サービス業であり、接客サービス業でのアルバイト経験もあることから、当該生徒の希望条件に添う職種の求人を開拓し、企業に当該生徒のアルバイト経験をアピールする等により、企業との即時面接が実現し、４月からの就職が決定した。

○　学校におけるニーズが増えている事例

・　就職者が少なく、学校の支援が行き届いていない学校において、高卒就職ジョブサポーターが定期的に訪問することにより、生徒の信頼を得て、個別相談等の実施の結果、就職が実現。学校は就職先企業に行きにくいことからその後の職場定着についての相談等を求める声が多い。

・　学校関係者ではない高卒就職ジョブサポーターが個別面談、模擬面接等を行うことにより、生徒にとって適度な緊張感が生まれ、社会に出る心構えが出来ると評価されている。